

# しず 清水遺跡第7・8次発掘調査説明資料

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

平成26年11月8日

## 調査要項

遺跡名	清水遺跡(県番号 No208-114)
所在地	山形県村山市大字名取字清水南・清水北
時代・種別	縄文・平安時代：集落跡
起因事業	第7次：東北中央道(東根～尾花沢間) 第8次：一般県道村山大石田線村山北1IC設置工事
調査依頼者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所 山形県村山総合支庁建設部北村山道路計画課
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成26年6月2日～平成26年11月28日
調査面積	第7次 1,100㎡ 第8次 3,100㎡
調査担当者	専門調査研究員 氏家信行(現場責任者) 調査研究員 尾形知哉 調査員 森谷康平
調査成果(11月8日現在)	
遺構	陥穴・掘立柱建物跡・竪穴住居跡・竪穴建物跡・ 溝跡・土坑
遺物	石器・土師器・須恵器・墨書土器・石製品



遺跡位置図(1/25,000)  
作業状況(北西から)

## 1 調査の概要

遺跡は、村山市東部の最上川が蛇行する右岸部にあり、清水地区のなだらかな丘陵の東斜面上に位置する縄文時代と平安時代の広大な遺跡です。

平成22・23年度に清水遺跡(1)～(4)の地区に分けて第1～6次調査を行っています。今回は、その地区の(1)～(3)の東北中央道(東根～尾花沢間)の事業範囲に係る未調査区と一般県道村山大石田線村山北1IC設置工事のスマートIC部分について調査を実施しました。

調査は、6月から開始し、最初に清水遺跡旧(1)の未調査部分(農道)を行い、その後、清水遺跡旧(2)・(3)のスマートIC及び中央道部分(市道)を行いました。

最初に、重機で遺構を確認できる深さまで表土を除去した後、手作業で土を削り(面整理・遺構検出作業)、遺構の確認をしました。その後、見つかった遺構を移植コテで掘り下げ、断面図や平

面図作成、写真撮影などの記録をしながら調査を進めました。

## 2 見つかった遺構と遺物

今回の調査では、縄文時代の陥穴と平安時代の竪穴住居跡、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡などが見つかりました。陥穴は前回の調査で確認されたものと同じ形態で全長3m、幅40cm、深さ1mを測る細長い形のものでした。

竪穴住居跡・建物跡は、現在まで10棟確認されています。規模は約2.3m四方の小さいものから、約7.3×5.8mを測る大きいものもあります。竪穴住居跡は南側にカマドが設置され、多くの遺物が出土し、竪穴建物跡は工房とも考えられます。

掘立柱建物跡は前回の調査から続くものを含め、今回の調査区では、現在まで11棟確認されています。その規模と数量は2×3間が5棟、2×2間が3棟、中央に柱をもつ総柱の建物は2×2間と3×4間が各1棟、そして、2×5間

の側柱+総柱の建物が1棟です。建物跡には、重複しているものがあり、何時期かの変遷が考えられます。建物群は、その規模などから倉庫と考えられます。

土坑は、直径約2.5mを測る大きいものもあり、多くの土器片が出土しました。

溝跡は前回の調査区から続くもので集落を囲む区画溝と考えられます。

遺物は、縄文時代の石鏃と石匙などの石器があり、平安時代の遺物は、素焼きで赤褐色の土師器と窯で焼かれた灰色の須恵器が多く出土しています。器種は、蓋や坏、高台付坏、甕などで、中には、「富」と文字が書かれた墨書土器や「十」とへら書きされた土器、ミニチュア土器などもあります。その他に、砥石4点も見つかっています。

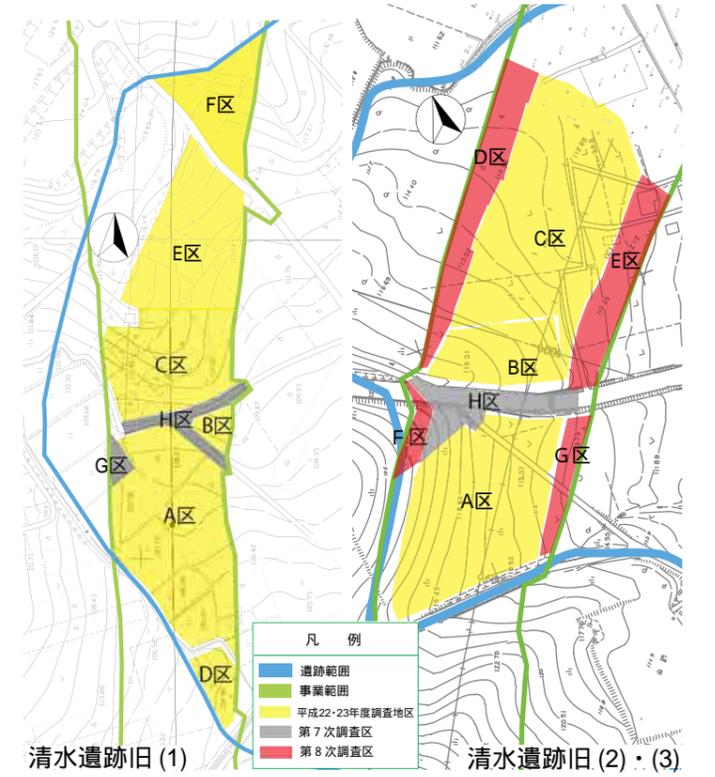
出土した土器の切り離し痕や形から概ね9世紀のものと考えられます。

## 3 まとめ

調査の結果、清水遺跡は、縄文時代は狩場として利用され、平安時代は9世紀から集落として機能していたと考えられます。但し、清水遺跡旧(1)

と清水遺跡旧(2)は竪穴住居跡を中心とした集落跡で、清水遺跡旧(3)は溝で区画された掘立柱建物跡群を中心とした集落と考えられます。

今後、各地区の遺構・遺物を詳細に検討して集落の変遷を明らかにしたいと思います。



調査区概要図(S=1:3,000)



第7・8次の調査区全景(北から)



竪穴住居跡（北東から）



カマド（北東から）



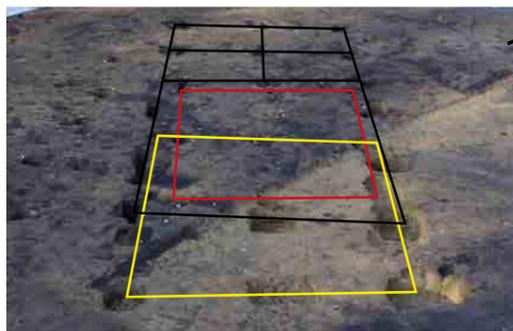
住居跡出土の土器（北東から）



竪穴住居跡（北から）



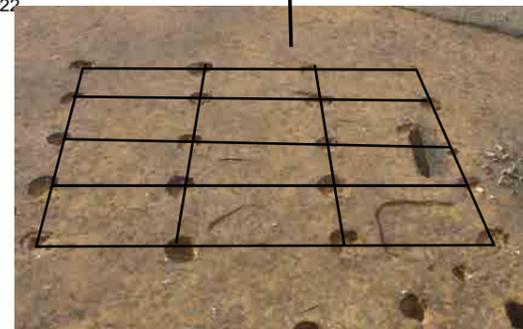
縄文時代の陥穴（東から）



3棟の建物跡（南から）



竪穴住居跡（東から）



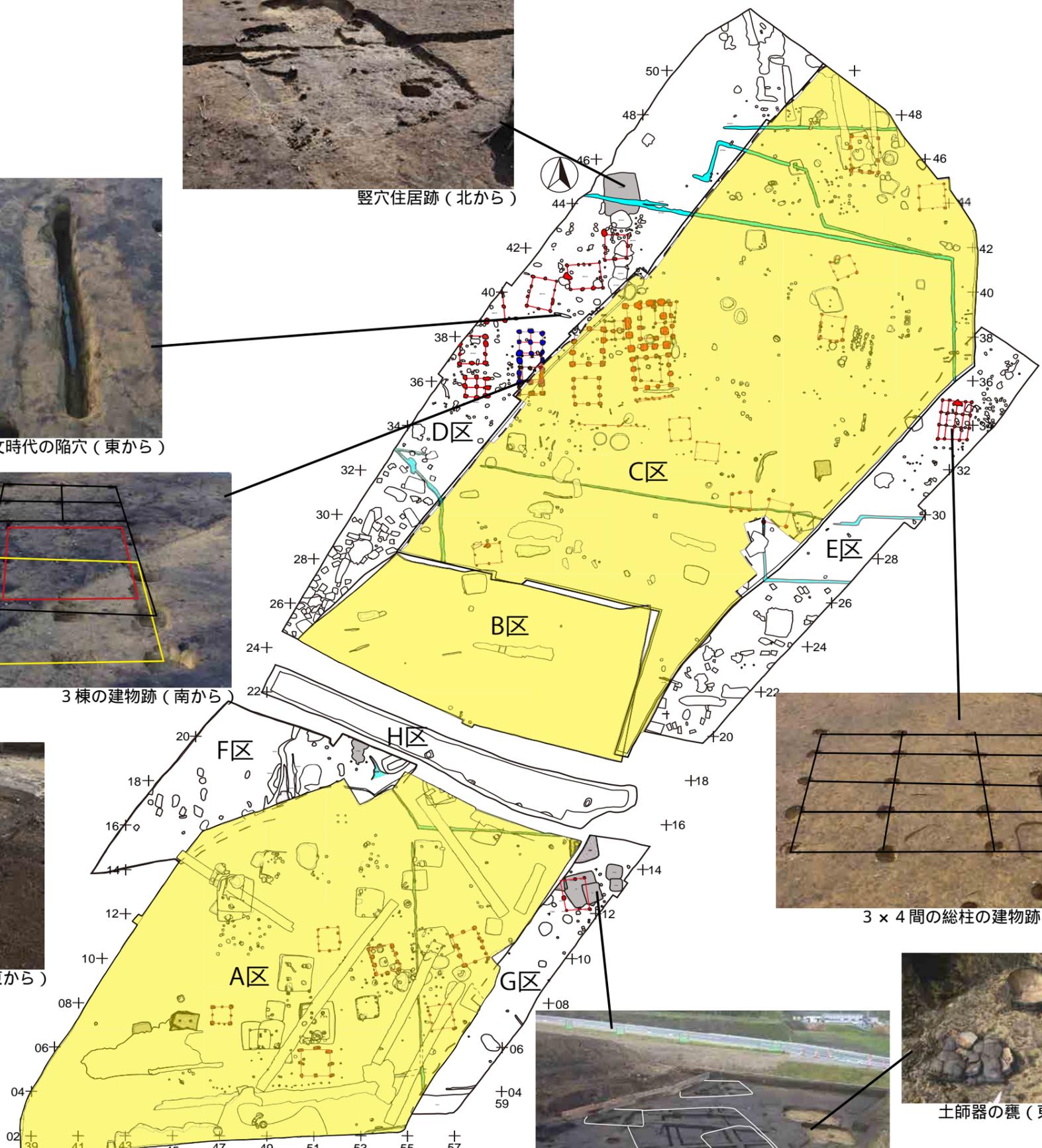
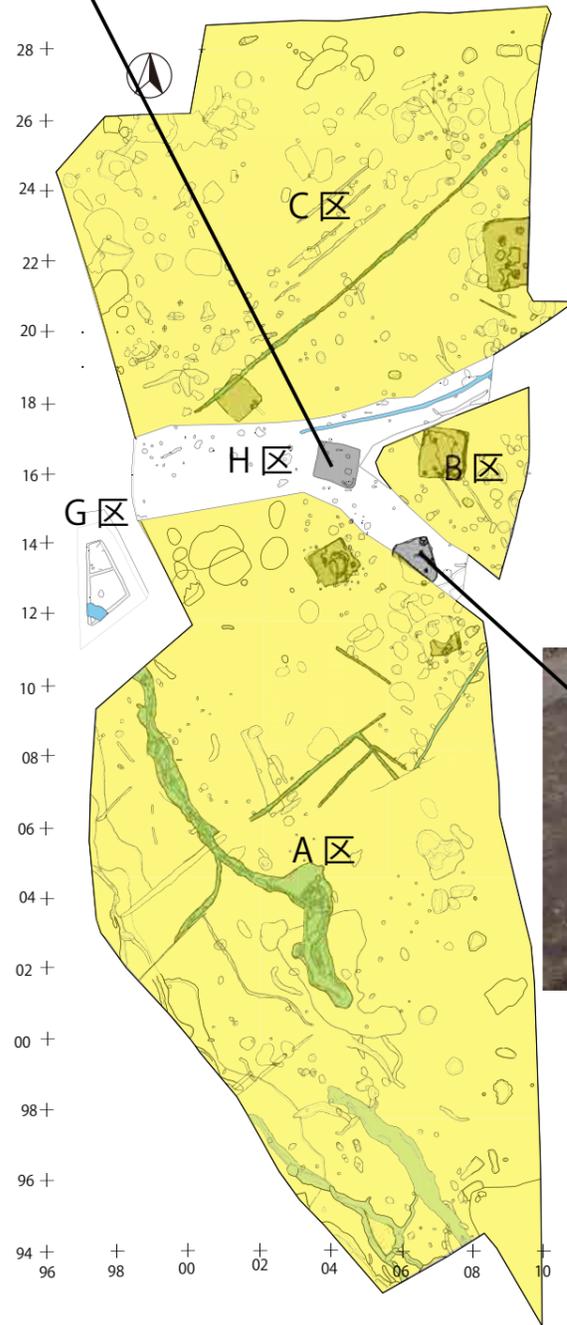
3x4間の総柱の建物跡（東から）



土師器の甕（東から）



竪穴建物・住居跡（南から）



凡 例	
	竪穴建物・住居跡
	掘立柱建物跡
	溝 跡
	平成22・23年度調査区